



考えよう災害時の 帰宅行動

災害発生直後に、多くの人が一斉に徒歩で帰宅を始めると、沿道の火災や落下物、集団転倒など思わぬ事故に巻き込まれる恐れがあります。

むやみに移動せず、職場や学校など安全な場所にとどまり、状況が落ち着いてから帰宅しましょう。

企業・事業所等で、適切な帰宅困難者対策を実施していくために、事前の対策や発災時の対応に取り組むことが重要となります。

帰宅困難者を出さないポイント

1 一斉帰宅の抑制



大規模地震などの発生時には、「むやみに移動を開始しない」という一斉帰宅抑制の基本原則を厳守することが不可欠です。

大規模地震の発生により公共交通機関が広範囲に運行を停止したら、企業等において従業員の一斉帰宅の抑制をお願いします。

帰宅困難者が一斉に移動を始めると

- 道路や歩道に多くの人々が密集して緊急車両が通行できなくなり、消火活動や救急・救助活動の妨げに！
- 混雑による集団転倒や建物の倒壊・落下物などによるケガのおそれも！

2 企業等における施設内待機

多数の帰宅困難者が発生すると考えられる企業等では、一斉帰宅の抑制を図るため、施設の安全が確認できれば、職場に待機するようにし、従業員が職場にとどまることができるよう待機場所の確保や3日分の飲料水等の必要なものの備蓄に努めましょう。



3日分の備蓄量の目安

水	1人あたり 1日3 L (計9 L)	ペットボトル入り飲料水
主食	1人あたり 1日3食(計9食)	アルファ化米、クラッカー、乾パン、カップ麺
毛布	1人あたり 1枚	毛布、保温シート

その他の物資(必要性が高いもの)

- 簡易トイレ、衛生用品(トイレットペーパー等)
- 敷物(ビニールシート等)
- 携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池
- 救急医療医薬品類
- ※その他、企業ごとに必要な備蓄品を検討

3 情報の収集と安否確認方法の周知

家族が無事であることや家族に自身の無事を知らせるなどの速やかな家族間の安否確認が、一斉帰宅の抑制につながることから、家族等との安否確認手段を従業員へ周知しておくことも大切です。

また、公共交通機関や道路等に関する交通状況や被害状況など、正確な情報の収集手段について事前に確認しておきましょう。



安否確認

災害用伝言ダイヤル (171)

電話を利用して安否情報を確認する「声の伝言板」です。

171に
ダイヤル

録音は

- ①「1」をダイヤル
- ②自分の番号をダイヤル
- ③ガイダンスに従い録音

再生は

- ①「2」をダイヤル
- ②相手の番号をダイヤル
- ③ガイダンスに従い再生

災害用伝言板 (web171)

インターネットを利用して安否情報を確認する「Web伝言板」です。

<https://www.web171.jp>

情報収集 (主なもの)

にいがた防災メール

登録いただいたメールアドレスに防災情報を配信します。
右下の二次元コードより登録手順を確認してください。



新潟市ホームページ (新潟市の発表情報)

市ホームページ内で緊急情報を表示します。
右下の二次元コードより新潟市が発表している緊急情報を確認できます。



新潟市LINE公式 アカウント

LINEを利用して、防災情報のほか、さまざまな情報も配信しています。

右下の二次元コードより「友だち追加」をして情報が欲しい区の防災情報を選択してください。



上記の情報発信手段を含め、災害時に情報を入手できる媒体の一覧は、新潟市ホームページからご確認ください。



交通情報

【鉄道】 ▶ J R 東日本ホームページ
<https://www.jreast.co.jp/>

【バス】 ▶ 新潟交通ホームページ
<https://www.niigata-kotsu.co.jp/~norai/status/>
▶ 新潟交通 X
@n_kotsu_businfo

【区バス・住民バス】

▶ 新潟市ホームページ
https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/doro/kotsu/by_bus/kubus/kubus_index.html

問い合わせ先

新潟市危機管理防災局防災課

TEL:025-226-1143 E-mail:bosai@city.niigata.lg.jp

FAX:025-224-0768